

やまがた地球家族

YAMAGATA GLOBAL FAMILY



Wikimedia Commons : ワンゲ国立公園

『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』機関誌 VOL.7

「国際力を高めるエンパワーメントセミナー」開催！

2008年10月23日(木)米沢市・伝国の杜にて、【国際力を高めるエンパワーメントセミナー】が開催されました。県内企業・自治体などから多数ご参加頂いた他、JICA 青年海外協力隊事務局次長・笹館さんも急遽ご参加。盛会御礼申し上げます！

荘内銀行法人営業本部海外取引支援室長・石井さんより、本県企業の海外展開の現況と課題についてご講演頂きました。また、JICA 東北支部長・甲斐さんから、JICA ボランティアについてご説明頂きました。



続いて、JICA ボランティア OB による現地での活動報告。ジンバブエからこの3月に帰国した伊藤さんは、子どもたちへの環境教育に力を注がれました【※1】。ガーナで活動なさっていた菅野さんは、村への貢献が認められて、エイナブリム村の副首長に任命された【※2】とのことでした。

最後に、山形短期大学非常勤講師・吉田さんの

注) 更に詳しい活躍ぶりは、インターネットでご覧頂けます！

※1 : JOCV NEWS 2009/1/1号「サポーター宣言」

※2 : 国際協力 NEWS 「村の副首長になった協力隊員」

コーディネートで参加者が意見交換を行いました。

ご参加の皆さん、開催にあたりご協力下さった方々に、厚く御礼申し上げます。

壮行会 石垣さんスリランカへ！ 松田さんマダガスカルへ！



2008年12月19日(金)、2008年度第3次隊青年海外協力隊として赴任する本県関係者2名が山形県庁を訪れ、細谷文化環境部長と懇談。抱負などを語りました。

今回派遣されるのは、石垣小百合さん(遊佐町出身・青少年活動・派遣国スリランカ)と松田智さん(山形市出身・青少年活動・派遣国マダガスカル)のお2人です。YOCA(NPO法人 山形県青年海外協力協会)と当会では、出発を目前にしたお2人の壮行会を開催しました。

協力隊への参加動機として、石垣さんは「以前訪れたベトナムでのストリートチルドレンの現状を見て、自分で何か協力したいと思っていた」、松田さんは「そこにマダガスカルがあるから自分が行くんだ」と語って下さいました。

お2人の現地での活躍を、心からお祈り致します。元気で行ってらっしゃい！

《平成20年度 協力隊を支援するやまがた地球家族の会 事業報告》

期 日	事 業	場 所	参加者
5月31日	定例総会	出羽庄内国際村（鶴岡市）	30名
6月16日	20年度1次隊壮行会	山形県庁（山形市）	13名
9月16日	20年度2次隊壮行会	山形県庁（山形市）	12名
10月23日	国際力エンパワーセミナー	伝国の杜（米沢市）	28名
12月19日	20年度3次隊壮行会	山形県庁（山形市）	10名
2月28日	ボランティア家族懇談会 及び 帰国報告会	遊学館（山形市）	38名

※5月31日、2月28日に2回の機関誌発行

※企業リスト作成チラシの作成、ホームページの作成

▼関連会議：11月16日～17日 （社）協力隊を育てる会事務局長会議

2月15日 宮城県青年海外協力隊を支援する会設立20周年記念式典



平成20年度ボランティア家族連絡会を開催！

平成21年2月28日（土）10時より、山形市の遊学館にて、平成20年度ボランティア家族連絡会が開催されました。JICA 東北支部・甲斐支部長、やまがた地球家族の会・酒井会長の挨拶



に続き、《JICA 国際協力中学生高校生エッセイコンテスト2008》の表彰式。青年海外協力協会会長賞を受賞された南陽市立宮内中学校一年・福井一貴さんが受賞作を朗読。

大きな感動を呼びました。（次頁に関連記事）

《帰国報告会》では、柔道指導のためヨルダンに派遣された松本興太さん、「養殖」の職種でマダガ

スカルに派遣された櫻井恵子さんの2名が、現地での貴重な体験談を発表して下さいました。

そして午後からは《ボランティア家族連絡会》。派遣中の隊員たちの留守家族の皆様にご参集いただきました。JICAからの事業説明や支援体制の説明の後、質疑応答やOG・OBとのグループ懇談を行いました。現地の情報やJICAボランティアの意義などをお伝えすると同時に、留守家族相互の交流も深めることができ、大変意義深い会となりました。



◆帰国報告する松本さん、櫻井さん→

2009年度も4月から5月にかけて、青年海外協力隊をはじめとするJICAボランティアの春募集があり、県内では米沢・山形・鶴岡の3ヶ所で募集説明会が開催されました。

4月24日に山形県出羽庄内国際村（鶴岡）で行なわれた募集説明会には、山形大学農学部の学生6名がご参加。「学んでいる農学の知識を生かして、海外でボランティアとして活躍したい」という意欲がみなぎっておられました。説明会では、JICAボランティアについての概要説明やDVD上映の

JICA
ボランティア
募集説明会
in 鶴岡

後、マラウイで10ヶ月に渡ってWFP（国連世界食糧計画）に配属され、プログラムオフィサーとして活動した齊藤貴子さんによる体験発表がありました。

また、地元出身のJICAボランティア経験者による個別相談も好評でした。地元・庄内だけでなく、山形市からご参加下さったOBの皆さんにも感謝致します。

今回、JICA ホームページに鶴岡での開催情報が掲載されていなかった等、広報宣伝に課題を残しました。より効果的なPR方法を検討する必要があります。

▼高橋結衣さん「コップンクラブ」
「ありがとうございます」5年間をタイで過ごした高橋さん。チェンマイの小学校の、虫が浮いた水を自分で汲んで流すトイレなどに衝撃を受け、「早く日本に戻りたい」と願っていた。帰国後、「安全で衛生的」な環境で過ごすうちに、給食の食べ残しが気になり出した。「日本全国で年間二千万トン」、「食べられる食品の約8%」が捨てられている事実を知り、タイで見た光景を思い出した。

バンコクの大通りで物乞いをしていた片腕のない男性に、「友達と一緒に安いパンを買ってあげると、「コップンクラブ」(ありがたい)」と繰り返しながら、目に涙を浮かべていた。また、学校にも行かず、屋台で皿洗いをしていた子供達は、「生きていくためには仕方ない」と言っていた。

生活の中で食べ物や水を無駄にしないことはもちろん、タイの実情を描いた絵本を作り、地域の子供達に伝えていくことを高橋さんは決意する。タイの人々への「コップンクラブ」を込めて。

▼福井一貴さん「未来につながるかけ橋」
テレビで「平和村」を知った福井さんは、様々な形で戦争被害を受けた人々を見て、「なぜ人間が人間同士で関係のない人まで巻きこんでまで戦争などをやるんだ。そんなことまでして、なにを得るというんだ」と怒りを覚えた。

「自分ができる事をコップンクラブ、コップンクラブ積み上げればいいんだ」と気付いた福井さんは、まずコンビニで募金箱に所持金を全て募金。次に、パソコンで戦争について調べてみると、テレビで見たよりもっと悲惨な地域があることを知り、同時にそうした地域で懸命に支援を続ける人達がいることに感動した。その人達に激励のメッセージを送った福井さんに返事が届いた。「君たちは未来につきあがるかけ橋なのだからがんばってね」。泣きそうになるのをこらえながら、「僕たちは」

国際協力 エッセイコンテスト

2008年度【JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト】では、「地球と生きる～

地球に暮らす一員としてできること、考えること。」というテーマに対して、全国から7万5千点もの作品が寄せられました。山形県内からは個人3名、学校5校が見事入賞。その一部を要約して紹介します！（学校・学年は受賞当時）

◆中学生の部

【入選】東根市立第一中3年 高橋結衣さん

【社団法人青年海外協力協会会長賞】

南陽市立宮内中1年 福井一貴さん

【学校賞】寒河江市立陵南中、飯豊町立飯豊中

◆高校生の部

【独立行政法人国際協力機構東北支部支部長賞】

山形県立庄内農業高3年 佐藤紘二さん

【学校賞】

酒田商業高、山本学園高、山形県立米沢商業高

▼ まだまだ生意気でそんなたいそうなことはできないけれど、この気持ちもいつでも持って生きていきたい」と思った。

▼佐藤紘二さん「アラビックコージ親宣言」

佐藤さんは、入部したばかりの演劇部で3年生から「おいがだはの、スマトラ沖地震被災遺児の三人の里親だなや」と言われる。演劇部では2年前から被災遺児支援チャリティ公演を行っていた。「実感も責任感もわかない」まま、公演の日を迎える。3人分の里親資金10万2千円の贈呈式を見て、「親とは大変だな」と思った。

先輩達が企業のメセナ活動に応募し、見事合格。佐藤さんも里子に会いに行くメンバーに選ばれた。バンダアチェは危険度が高いため、メダンで里子達と対面。先方の校長先生が「アラビックコージ」とあだ名を付けてくれたおかげで、一気に打ち解けた。復興半ばのアチェの現状を知り、佐藤さんは「親としての責任や実感」を感じた。帰国後は里子たちのために、公演を目指して奮闘。翌年、アチェから里子達を招いての公演が実現しそうだ。彼らにこれから必要なのは「将来を夢見ること」ではないか。彼らの生きる力になるような公演を目指すと共に、里親としての誇りを後輩達に引き継いでいきたい。

宮城県の「育てる会」との交流

2月15日、【宮城県青年海外協力隊を支援する会】20周年記念式典に当会顧問である佐藤邦彦さんご出席。報告のメールが届きましたので、ご紹介します。(右記参照)ss

同会の設立20周年にあたる2008年度にも、第15回目となる〈現地視察の旅〉としてウガンダを訪問される等、活発な事業を展開しておられます。お隣同士、今後とも交流を図っていききたいものですね。

～前略～ 約100名の大盛会でした。東京の育てる会から足立会長、JICA本部から笹館次長、元JICA理事の松岡さんなどもみえられました。酒井会長代理ということでおこぼをかけさせてもらってきました。

当日、20周年記念誌も配布されましたが、これまでの会員の皆様の献身的な活動の記録が満載されており、貴重な歴史的文献になっていると確信いたしました次第です。また「国際協力をわが国の文化に」と言われますが、国際協力を市民・国民が支えていく活動を地域で地道におすすめていく力強いエネルギーを実感させていただきました。～後略～

山形新聞 (夕刊) 2009年1月23日付より

山形県青年海外協力協会理事であり、当会でも監事を務めて下さっている吉田庸一さんが、山形新聞に【協力隊の「力」地域に還元】と題した提言を発表されました。JICA ボランティアの現状と帰国後の支援についての問題点、今後への展望などが簡潔にまとめられていますので、ぜひご一読ください。

YTS
提言の広場
に出演

2008年11月30日(日)、8時から放送されたYTS山形テレビ【提言の広場】に、当会の斎藤栄司副会長が出演しました。

この回のテーマは《山形と世界をつなごう～笑顔が輝く！海外ボランティア》。開発途上地域の経済・社会の発展や復興に協力するJICA(国際協力機構)の派遣事業を紹介しながら、海外ボランティアの意義や推進の為の課題を考える構成になっていました。

斎藤副会長とともに、当会顧問でもある(株)でん六・鈴木社長とJICA山形デスク・伊東さんもご出演。「収録後半は時間がおして、マキマキの状態でした・・・」とのこと、皆さんお疲れさまでした!

■『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』入会のご案内

【会費】 ●個人会員 = 3000円 ●家族会員 = 1000円 (個人会員の家族) ●学生会員 = 1000円 ●団体会員 = 10000円 (企業及び団体)

【会員特典】 JICA ボランティアの姿を通して、世界が見える! 「国際ボランティアマガジン 月刊《クロスロード》」を、年間購読料5000円のところで、希望する会員には2000円の送付手数料のみで1年間12冊ご提供いたします。

協力隊の「力」地域に還元

国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊が充足して今年で四十四年目になる。これまでアフリカや中南米などの発展途上国に隊員を派遣し帰国した隊員は三万人に達する。隊員は日本

提言

外交の顔の見える協力隊の一環として途上国の人々と生活をともにし(人づくり)、国造りを担っている。隊員は任地国での技術指導を通して地球規模の人のつながり、彼らと一緒に生きることを学びしなやかな対応



県青年海外協力協会理事

吉田 庸一

帰国後支援 もっとと広く

力に身をつけて帰国している。とは、結果的に地域活性化につながる。しかし、残念ながら帰国した隊員の就業支援などの状況は発足当時とあまり変わっていない。派遣期間中の休職が認められず、やむなく退職するケースが多い。帰国後も県内で就職が

多い。帰国後も県内で就職が月まで広報専用車で全国キャラバンを行っている。東北地方は

キャラバンは東北各地の首長や地域のリーダーと懇談してきたが、いずれも青年海外協力隊への関心は高かった。多くの首長は地元青年を青年海外協力隊に参加させ、帰国した後も就業者などを支援することで地域活性化に結びつくのではないかと述べていた。今回の訪問で、協力隊に期待し支援する人の多さを実感した。東北各地をめぐり、あらため

東北各地をめぐり、あらためて気が付いたことがある。郷土に根を張り、さまざまな分野で活躍する協力隊OBの数が実に多いことだ。あるOGは小学校で子どもたちと体験学習をしたが、地域と地球を結び活動をしてきた。退職後にJICAシニア

できず、職を求めて首都圏に移り住む人も多い。現在推進されている地方自治体の派遣条例制定や民間企業などへの給与補てんなどの現職参加制度を生かして、協力隊に参加しやすく、地元に戻りやすい社会を目指すことなどを訪問した。

☆お問い合わせ/ご入会のお申し込みは、当会事務局まで。

やまがた地球家族 VOL.7 平成21年5月30日発行(第7号) 発行人/酒井忠久

発行/〒999-7725 山形県庄内町沢新田151 富樫方 『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』事務局
TEL&FAX) 0234-42-1458 (富樫) E-mail) info@chikyukazoku.net Website) http://www.chikyukazoku.net/